

# 菊沢地区

人口	男	6,721人	女	6,769人	計	13,490人	世帯数	4,939世帯
----	---	--------	---	--------	---	---------	-----	---------

※人口、世帯数は令和4年1月1日時点

## 《事業概要【分野】と主な支出内容》

### ① 新規防犯灯整備事業【防犯】

「明るく住みやすいまち」を目指して、LED防犯灯を設置。自治会・育成会・老人会・消防団等の諸団体と協力し、維持管理及び防犯パトロールや交通安全指導を積極的に、通年を通して実施。

防犯灯設置(61基)・見守り活動用ベスト

### ② 桜のふるさと事業【観光】

将来の若者が「ふるさと」として顧み、活力とともに安らぎを感じられる地域とするため、子供たちとともに育てる「桜のふるさと事業」を展開し、桜の育成管理と交流事業を実施。

桜苗木・園芸用土・刈払い機・除草剤散布

### ③ 文化伝承事業【文化】

史跡の保存に努めるとともに、地域以外の多くの人に知ってもらうために、地域の文化を次世代につなげていく。

「木喰薬師堂」看板設置・「木喰の歌」CD作成

### ④ 千渡コミュニティ体制整備事業【住民交流】

地域に根差した人的ネットワークを再構築し、地域住民、特に高齢者、障害者、そして未来を拓く子どもたちが夢と希望を持ち、安心して生活できるコミュニティを創造する。

のぼり旗作成・お囃子備品修繕・防災用井戸設置

### ⑤ 糠塚山ふるさと公園整備事業【住民交流】

糠塚山周辺の里山を整備。菊沢地区の豊かな自然を守りながら、交流の場を提供していく。

樹木伐採・遊歩道整備

### ⑥ 地域のための防災啓発事業【防災】

住民の一人ひとりが防災意識を高められるような事業に取り組み、地域の安全は地域住民が協力し合い支え合いながら守る地域づくりを目指す。

防災啓発用教材・プロジェクター・パソコン・防災展示物パネル作成・先進地視察

## 《収支決算》

【収入(円)】

費目	H29	H30	H31/R1	R2	R3	計
地域の夢補助金	1,374,640	971,563	1,840,700	3,827,396	1,279,657	9,293,956
その他補助金	0	0	0	0	0	0
自己資金	105,588	104,013	466,056	988,583	138,638	1,802,878
計	1,480,228	1,075,576	2,306,756	4,815,979	1,418,295	11,096,834

## 【支出(円)】

事業No	H29	H30	H31/R1	R2	R3	計
事業①	256,122	303,598	241,056	236,600	0	1,037,376
事業②	549,466	171,863	200,000	68,274	65,289	1,054,892
事業③	500,000	50,415	0	23,242	0	573,657
事業④	174,640	549,700	465,700	1,265,203	355,138	2,810,381
事業⑤	—	—	1,400,000	2,384,800	0	3,784,800
事業⑥	—	—	—	837,860	997,868	1,835,728
計	1,480,228	1,075,576	2,306,756	4,815,979	1,418,295	11,096,834

## 《事業への取り組みを振り返って》

## ① 新規防犯灯整備事業【防犯】

菊沢地区玉田町は、ここ数年住宅地分譲が活発で、若い世代の人口増加が目立っています。それに伴い幼児・小中高生も増加しています。「安全・安心なまちづくり」のため、交通安全指導や登下校の見守りなどを住民の協力を得て実施しています。

「県道板荷玉田線」「千手町通り」「北鹿沼駅からの東通り・南通り」の主要道路などに防犯灯が整備されていないため、子どもたちの下校時や通勤帰りに事故に遭遇しかけたなどの不安の声が住民から寄せられました。



LED 防犯灯を設置した主要道路

これらの課題解決のため、LED 防犯灯を設置。また、自治会・育成会・老人会・消防団等の諸団体と住民が協力し、防犯パトロールや交通安全指導を積極的に年間を通して実施しています。

この事業により、地域住民からは、「明るくなり、安心だ」との声をいただいています。また、防犯パトロールに地域ぐるみで取り組むことにより、地域の防犯意識の向上が期待できます。

## ② 桜のふるさと事業【観光】

とちぎのふるさと田園風景百選にも選出されている菊沢地区見野では、人口減少が進んでいるなか、若者が地域に目を向け、地域に住み、地域づくりを継続していくことを目指し、安らぎと愛着を感じられる「ふるさと」づくりの一環として、黒川堤防沿いに桜200本を植栽し、子どもたちとともに育てる「桜のふるさと事業」を展開しています。

植栽作業には、自治会・育成会・高校生ボランティア・家族連れなど120名が参加し盛大に実施することができました。植栽後は、捕植、殺虫剤散布、除草作業等継続して実施していますが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、地域交流会の開催を中止せざるをえない状況にあります。

今後も、地域の子どもたちと育成管理を行い、住民間の交流を図るとともに、交流会では、地区外からも多くの方に足を運んでいただき、地域活性化を図ります。



地域みんなで行った植栽作業



世代を超えて、共同作業！

### ③ 文化伝承事業【文化】

多くの史跡が残されている菊沢地区ですが、若い世代を中心に地域の歴史への関心が薄れています。そのため、地域の文化を次世代に伝えていくために文化伝承事業に取り組んでいます。

栃木県の有形文化財に指定されている薬師三尊像と十二神将像が祀られている木喰薬師堂の案内看板の設置や菊沢東小学校合唱部による「木喰様の歌」のCD化を実施しました。今後は、地区内のイベント等で活用し、子どもたちの世代へ継承していきたいと考えています。

また、地域住民に広く「自慢の場所」を募り、歴史的な名所に留まらない「菊沢いいところマップ」作成にも取り組んでいます。地区内の小・中学校にも協力をお願いし、子どもたちからは365件の応募がありました。子どもたちの応募により、大人だけでは気づかなかった地域の「自慢の場所」がたくさん挙げられました。このため、マップ作成前に、中学生と地域住民によるグループディスカッションを開催し、マップをより身近で親しみやすいものにすることを目指すことに変更しました。

マップ作成に子どもたちにも参画してもらうことへ発展させることができたことは大きな成果だと感じています。しかし、新型コロナウイルス感染拡大の影響で延期せざるをえない状況です。この事業は引き続き継続してマップ完成と周遊イベントの開催を目指します。



菊沢東小合唱部が「木喰様の歌」を収録



地域の文化財の案内看板を設置

## ④ 千渡コミュニティ体制整備事業【住民交流】



のぼり旗で、事業をPRしています

菊沢地区千渡では、道路整備や宅地開発が進み、地域住民の心豊かな人間関係の構築、快適な環境整備が喫緊の課題です。また、高齢者や障害者福祉の推進も大きな課題です。地域住民、特に高齢者、障害者そして未来を拓く子どもたちが夢と希望を持ち、安心して生活できる千渡コミュニティを創造し、地区のコミュニティ強化を図るため、「向こう三軒両隣」を基本とした助け合いの体制「千渡あちこちネオネット」を構築し、地域コミュニティ協議会の設立と推進活動に取り組んでいます。

現在、この人的ネットワークを活用して、日常生活における高齢者の見守り活動やきれいなまちづくり推進活動など様々な地域活動に取り組み、大きな成果を上げています。

また、この「ネオネット」を基盤に防災活動も推進していきます。千渡自治会館敷地内への防災用井戸の設置、「千渡防災計画」の策定及び自治会内への配布などにも取り組んでいます。

## ⑤ 糠塚山ふるさと公園整備事業【住民交流】

菊沢地区仁神堂町の中心に位置し、山頂からは西に鹿沼市街、東には武子川の緩やかな流れを、北には雄大な男体山や日光連山を眺めることができる糠塚山は、地域住民に親しまれる場所でしたが、山林の整備が追いついていない状況でした。地域住民の交流の場として復活させるため、住民の協働による周辺の里山整備に取り組んでいます。

令和2年度に整備事業は完了しました。整備後には、近隣の家族連れからは、見通しが良くなり、安心して散歩ができるようになったといった声をいただいています。若い世代もウォーキングするなど、憩いの場として定着しつつあります。しかし、新型コロナウイルス感染拡大の影響で当初予定していた三世代交流事業は実施することができていない状況です。



遊歩道が整備された糠塚山



植栽も行われ、交流事業の開催が楽しみです

⑥ 地域のための防災啓発事業【防災】

近年多発多様化している災害に対応するため、地域住民への防災に関する更なる啓発がより重要になっています。住民の一人ひとりが防災意識を高められるような事業に取り組んでいます。

令和2年度・3年度ともに新型コロナウイルス感染拡大の影響で、イベントの中止及び規模縮小を余儀なくされましたが、菊沢地区の防災意識の向上と防災知識・技能を持つ人材育成を目的に活動する「菊沢きずなプロジェクト実行委員会」を中心に、様々な活動に取り組みました。

視察研修や災啓発教材、プロジェクター・パソコンの購入により、研修指導スキルアップを図ることで、鹿沼市の生涯学習講座の企画に参画したり、市内小・中学校の授業へ講師として招かれたりする機会が増えました。教師からではなく、地域住民からの実践的な授業を受ける体験は、子どもたちの防災意識の向上の一助になることと手ごたえを感じています。

また、菊沢コミュニティセンター内の防災展示室のリニューアルにも取り組みました。実行委員会で何度も話し合いを重ね、「災害を我が事として考える」を合言葉に、分かりやすく、親しみやすい、きずなプロジェクトらしい展示を心がけました。リニューアル・オープンには、地区内外から多くの方に足を運んでいただき、(公財)市民防災研究所の坂口隆夫氏の講演会を開催し、参加者とともに、「地域防災を考える」一日となりました。

今後も、地域の安全は地域住民が協力し合い支え合いながら守る地域づくりを目指す事業に取り組んでいきます。



整備したプロジェクターで、親子防災教室



アイデアを出し合い、工夫を凝らした展示室